

# 資源管理型漁業推進総合対策事業調査

## 2. 広域回遊資源：日本海北ブロック 第Ⅱ期 マダイ (抄録)

山内 高博

### 栽培資源調査

#### 1. 漁獲統計調査

##### (1) タイ類漁獲量の経年変化について

本県日本海側における漁獲量は、昭和39年以前には350トン前後であった。その後漁獲量は減少傾向を示しながら、昭和56年まで100～200tの範囲で推移したが、その後更に減少を続け昭和63年には30tと最低を記録した。しかし、平成元年以降増加の兆しを見せ、平成7年には昨年の81t増の208tとなった。

##### (2) マダイ銘柄別漁獲量、漁獲金額について

大戸瀬漁協における平成7年のマダイ月別漁獲量については、漁獲のピークは春と冬にあり、特に12月は漁獲量で15.4t (54.5%)、漁獲金額で13,942千円 (42.7%)と年間の漁獲の半数を占めた。また、銘柄漁獲量で3P (15cm未満)の占める割合は、昨年の24.9%から24.2%と若干であるが減少した。しかし、平成7年は、資源管理計画を策定した平成5年に比べると19.6%減少したことになり、同計画(当才魚の再放流)が遵守されていたものと思われる。

なお、銘柄別漁獲金額については、中(1.5kg～3.0kg)からP(18～22cm)の6銘柄で全体の89.1%を占めた。

#### 2. 魚体測定調査

平成7年大戸瀬漁協の4～6月、7～9月及び10～12月におけるマダイ年齢組成については、各月とも0才魚は漁獲されていないが、1～2才魚の占める割合はそれぞれ95.6%、80.7%、98.0%と高い値を示し、例年と同様の傾向となった。これは、全銘柄に占める3P、Pの合計尾数割合が年間で88.7%になることが原因と思われた。

また、平成7年及び6年の主要漁期(4～12月)における大戸瀬漁協のマダイ年齢別漁獲尾数については、平成6年は1才魚が60.1%であったものが、平成7年には79.4%と増加し、逆に2才魚以上の比率が減少しており、全体的に大型個体の比率が昨年に比べ減少した。

#### 3. 市場調査

平成7年の大戸瀬漁協の4～6月、7～9月及び10～12月の各期間におけるマダイ率は、特大(6kg以上)から半2(0.4～0.8kg)にかけての値が100%であるが、小(0.3～0.4kg)から3Pに

かけては、銘柄が小さくなるほどマダイ率が低下する傾向を示し、特に、4～6月の3Pは17.9%と特に低い値を示した。

また平成7年大戸瀬漁協のマダイ銘柄組成については、小型個体のP、3Pの合計は、漁獲量では74.3%、漁獲尾数では更に増え88.8%となったが、漁獲金額では51.1%しかなかった。金額で最も高い割合はPの43.3%で次いで中の13.5%であった。

#### 4. mt-DNA解析用マダイ測定結果

平成7年度mt-DNA解析用マダイとして、次表に示した産卵群と索餌回遊群の筋肉及び肝臓の一部を-20℃で凍結保存し、東海大学に送付して解析を依頼した。

群	平均尾又長 (cm)	年 令	個体数
産 卵 群	41.0±1.6	1～6才魚	30
索餌回遊群	17.9±1.6	1～2	50